

地域学歴史文化研究センター
自己点検評価報告書

平成19年度

部局等の自己点検評価報告書

(地域学歴史文化研究センター)

1. 部局等の目的・目標

(1) 目的・目標

21世紀社会には、新たな学問体系が求められている。佐賀は19世紀後半、近代西欧文明・学問体系を先進受容した。それがどのような歴史文化を基盤としていたのか、また定着し展開したのかは、現在問われるべき重要な課題である。

佐賀大学は国立法人化を迎えるにあたり設定した、理念・中期計画・目標のなかに、「社会が要請する研究分野を担当する分離融合型の研究センター設置を目指す」、「地域住民・市民と大学との地域連携研究を推進し、新たに『地域学』を創出する」とある。

本センターはこれを実現するために、平成18年4月に学内共同利用機関として設立された。従って、本センターの目標は、1) 本学における文系基礎学の基盤整備を図り、充実・発展させること、2) 地域(佐賀)の歴史文化の固有性と普遍性を探究すること、3) 新たな学問体系としての地域学を創造すること、4) 本学の学問大系に新たな方向性(価値観・世界認識)を提示することを目指す。この目標実現のため、以下の具体的な研究活動・事業を展開している。

(2) 基本的研究活動・事業

- 1) 地域(佐賀)の歴史文化資料の調査・収集と研究
- 2) プロジェクト(研究)の設定・企画・運営
- 3) 諸データベースの作成
- 4) 「研究紀要」「史料集」「図録」の刊行(企画・編纂)を行い、広く学会等へ調査・研究成果を公表していくこと
- 5) 講演(会)・講座・シンポジウムの開催(企画・設定)
- 6) 地域文化交流協定等による博物館等の特別展示の企画立案、共催事業の展開等により、本学(学生・教職員)及び地域社会へ研究成果を提供すること
- 7) ホームページによるタイムリーかつ簡便な地域歴史情報を広く提供すること

2. 部局等の概要

(1) 設立経緯

平成16年に学長経費による文系基礎学研究プロジェクトを開始した。佐賀大学附属図書館蔵小城鍋島文庫を調査・公開することと、2003年2月に結ばれた佐賀大学と小城町との地域文化交流協定事業の支援として、2004年8月に特別展「小城鍋島藩と島原の乱」を開催し、同図録を刊行した。2005年には、特別展「小城鍋島家の近代」を開催し、同図録を刊行した。これらの事業の発展上に、地域学歴史文化研究センターが、平成18年4月に設立された。

(2) センターの概要

1) 本センターは、地域（佐賀）の歴史文化の固有性と本学文系基礎学研究の現状を踏まえて、考古学、国文学・文献学、洋学・思想史、地域史・史料学の4研究部門に専任・併任教員を配置し、地域学創造に向けた研究をすすめている。

2) 各研究部門長は、部門のプロジェクトを運営し研究を推進する。

3) 研究拠点として、平成18年10月佐賀大学本庄キャンパスに竣工した菊楠シュライバー館を使用し、市民・学生向けの閲覧室・展示室を常備している。

4) 教職員構成は以下の通り（19年度末現在）

センター長 1名
高崎洋三医学部教授（併任）

専任教授 1名

専任准教授 1名

併任教授 2名

併任准教授 1名

併任講師 1名

教務補佐員 1名

5) 部門別構成 ○印部門長

考古学研究部門

○佐田茂文化教育学部教授（併任）

地域史・史料学研究部門

○伊藤昭弘地域学歴史文化研究センター准教授（専任）

鬼嶋 淳文化教育学部講師（併任）

石川亮太経済学部准教授（併任）

国文学・文献学研究部門

○井上敏幸文化教育学部教授（併任）

洋学思想史部門

○青木歳幸地域学歴史文化研究センター教授（専任）

教務補佐員

伊藤彰子（平成19年11月21日退職）、亀井森（平成19年11月26日採用）

3. 領域別の自己点検評価

（以下の事項に係る評価項目は、認証評価並びに中期目標項目に準拠したものを各部局等で設定する）

(1) 教育の領域

ア 教育目標・成果に関する事項

本センターは研究センターであり、特に教育に関する目標を定めていないが、研究成果を応用した地域学教育を構想し、教養教育と連携しながらその構築をすすめた。

イ 教育内容・活動に関する事項

・教養教育に積極的に関与し、専任教員2名が授業を担当した。

ウ 入学・卒業等に関する事項

・とくになし。

エ 教育環境に関する事項

・閲覧室に歴史・文化・郷土史関係の書籍・資料を配置し、学生に提供した。

・19年度末の展示室図書は、600冊整備した。

オ 学生支援に関する事項

・歴史に関する質問、卒論研究等への支援を随時行った。

カ その他教育に関する事項

・とくになし。

(2) 研究の領域

ア 学術・研究活動に関する事項

本センターの学術・研究活動については、設立趣旨にのっとり、順調に成果をあげ、以下の理由から高く評価できる。

1) 小城市教育委員会と共同研究「海外交流と小城の洋学」を実施し、その成果を共催特別展開催及び図録の刊行により発表した。

ア. 展示 「海外交流と小城の洋学」 10月13日～11月18日、小城市歴史資料館

イ. 展示図録 『海外交流と小城の洋学』 1-140頁、巻末に史料目録添付

論考 ミヒェル・ヴォルフガング (九州大学教授)

「ヨーロッパ人から見た一七世紀の日本」

岩松要輔 徴古館館長

「幕末小城藩の西洋形帆船「太木丸」について

田久保佳寛 小城市歴史資料館学芸員

「小城藩がつとめた高島番」

ウ. 関連講演会

10月13日 青木歳幸 「海外交流と蘭学者たち」

10月20日 松田清 京都大学教授 「小城藩の洋学—人工体普録を中心に」

ミヒェル・ヴォルフガング 九州大学教授

「ヨーロッパ人から見た一七世紀の日本」

2) 研究紀要2号を刊行し、専任・併任教員が研究成果を研究紀要に発表した。

佐田茂 「肥前西部の古墳時代の動向」

伊藤昭弘 「文久三年の佐賀藩」

青木歳幸 「小城藩蘭方医研究—宮崎元益・元立、相良柳沢・柳逸」

井上敏幸 「近世佐賀の出版—近世の活字文化と佐賀藩」 展開催によせて」

3) (財)仁川文化財団 (韓国) と国際ワークショップ「仁川・長崎開港場ワークショップ」を開催した。

ア. 日時、場所 9月29日、於長崎歴史文化博物館

イ. 内容 崔元植 「東アジアの中の仁川」

白池雲「植民地の記憶、その再領土化のために」

李玉蘭「近代期韓国の華僑」

青木歳幸「長崎でのシーボルト外科手術を記録した農民—19世紀前半からの蘭学の普及と長崎」

籠谷直人「東アジアにおける自由貿易原則の浸透と華僑華人ネットワーク」

高田美由紀「蘇る出島—出島復元整備第Ⅱ期事業を中心に」

4) 佐賀大学附属図書館所蔵市場直次郎コレクション調査

ア. 調査内容：市場直次郎コレクション書画類扇面500余点、軸物類300余点、色紙・短冊類約430点、和書670余冊の調査、目録化

イ. 成果：『市場直次郎コレクション目録』刊行、A5版、335頁、

ウ. 主担当：国文学・文献学資料部門井上敏幸教授

5) 佐賀県立佐賀城本丸歴史館と共同研究を行い、成果を「近世の活字文化と佐賀藩」展により公開した。

ア. 展示 「近世の活字文化と佐賀藩」、10月12日～11月25日、於佐賀城本丸歴史館

イ. 関連講演会 11月11日

高山節也二松学舎大学教授

「佐賀藩の漢籍」

中野三敏九首大学名誉教授

「九州の地方版」

6) 公開講座の実施

ア. テーマ「文化の先進受容地佐賀の魅力をさぐる」

イ. 開催趣旨

佐賀においては、弥生文化の稲作の受容から朝鮮出兵での交流、黄檗禅の伝播、幕末期の科学技術の導入、明治維新以後の近代化にいたるまで、大陸や西洋の文化を先進的に受容し、我が国に発信しつづけてきた。このような佐賀の歴史文化と地域特性の魅力をさぐることにより、21世紀における文化受容のありかたへの指針を得たい。

ウ. 日程等

第1回 12月 1日 (土) 13:00～15:00

講師；佐田茂 (佐賀大学文化教育学部教授)

テーマ；古墳時代の肥前西部地域

第2回 12月 15日 (土) 13:00～15:00

講師；宮島敬一 (佐賀大学経済学部教授)

テーマ；中世佐賀の時代区分—蒙古襲来のもたらしたもの—

第3回 1月 12日 (土) 13:00～15:00

講師；井上敏幸 (佐賀大学文化教育学部教授)

テーマ；鍋島直條の文事

第4回 1月 26日 (土) 13:00～15:00

講師；青木歳幸 (佐賀大学地域学歴史文化研究センター教授)

テーマ；西洋医学の受容と発信—種痘・好生館を中心に—

第5回 2月 9日 (土) 13:00～15:00

講師；伊藤昭弘 (佐賀大学地域学歴史文化研究センター講師)

テーマ；文久3年佐賀藩の情報収集と日英関係

7) 佐賀大学ゆっつらーと街角大学講義

ア. 7月6日 伊藤彰子 (センター教務補佐員)

「江戸時代の「有明海」漁業について」

イ. 11月9日 伊藤昭弘

「文久三年の佐賀藩～「攘夷」への対応に関して」

8) 関連学会共催等

ア. 8月25日、民衆思想史研究会、於佐賀大学理工学部6号館

・研究発表

1 生馬 寛信 (佐賀大学文化教育学部教授)

「対馬藩田代領における地役人層の教育と文化 (仮)」

2 伊藤 昭弘 (佐賀大学地域学歴史文化研究センター准教授)

「佐賀藩財政に関する一試論 (仮)」

3 片倉 日龍雄 (幕末技術史研究会)

「弘化・嘉永期の商人日記にみる佐賀地方の情報流通」

4 青木歳幸 (佐賀大学地域学歴史文化研究センター教授)

「佐賀の西洋医学の普及と民衆」

イ. 9月29日 講演会「鹿島鍋島藩の政治と文化Ⅱ」後援

(人間文化研究機構国文学研究資料館・祐徳稲荷神社共催)

ウ. 第113回日本近世文学会 協力

11月10日 於佐賀大学教養教育大講義室

11月11日 於佐賀城本丸歴史館

9) 佐賀県内古文書調査

ア. 山本家文書 (伊万里市立岩)

・ワークショップ23回開催により整理、

17回4/9、18回4/23、19回5/14、20回5/28、21回6/11、22回6/25

23回7/9、24回7/23、25回8/9、26回8/27、27回9/3、28回9/17

29回10/15、30回10/29、31回11/12、32回11/26、33回12/10、34回12/17

35回1/22、36回2/4、37回2/18、38回3/17、39回3/31

・ワークショップ市民参加者

多久島澄子、福岡ミチヨ、中島マサ子、藤井鹿男、山本進

イ. 武藤家文書 (佐賀市本庄町、武家) 調査

ウ. 馬郡家文書 (小城市馬郡国忠氏蔵) 調査

10) ミニ展示開催 (主なもの、於地域学歴史文化研究センター展示室)

ア. 成立期の小城藩と藩主たち (5月1日～6月29日)

イ. 写真で見る旧制佐賀高校Ⅱ (7月2日～8月23日)

ウ. 山本家文書 (8月24日～11月13日)

11) ホームページへの歴史情報掲載、佐賀の歴史散歩更新

イ 研究環境に関する事項

研究環境の整備・

- 1) 教務補佐員を配置し、データベース作成、共同企画展等の補佐により事業を遂行した。
- 2) 競争的資金への応募を積極的に行った。
 - ・概算要求「「佐賀」学教育システム開発プロジェクト」を要求。
文部科学省を通過したが、財務省段階で不採択となった。
 - ・専任教員は何れも科研費に応募した。青木歳幸は基盤研究（B）「佐賀藩の反射炉築設・鉄製大砲鑄造技術に関する研究」（100千円／3560千円）の研究分担者、伊藤昭弘は若手研究（B）「近代日本における塩国家専売制の総合的研究」（1200千円）を得た。
- 3) 地元研究機関、資料保存機関との協力関係構築を進めた。
 - ア．小城市教育委員会との地域文化交流事業を積極的に推進し、小城鍋島文庫や、地域関連史料の調査研究をし、地域貢献をした。とくに、「海外交流と小城の洋学」展図録で、東京国立博物館蔵川崎道民筆「航米実記」を翻刻したことは、佐賀で初めての公開となった。
 - イ．佐賀県立佐賀城本丸歴史館等との連携を深め、共催展「近世の活字文化と佐賀藩」を開催し、我が国の近世活字文化に中国・朝鮮の影響の強いことを展示し、佐賀の近世文化の特性を明らかにした。
 - ウ．佐賀関係古文書・典籍類の寄託・収集・調査等により、センターの研究環境の向上に努めた。

(3) 国際交流・社会貢献の領域

ア 大学、職員及び学生の国際交流に関する事項

- ・韓国の仁川文化財団と国際ワークショップを開催し、交流に努めた。

イ 教育における社会連携・貢献に関する事項

- ・公開講座の実施
- ・講演会の実施
- ・小城市教育委員会や佐賀県立佐賀城本丸歴史館との共催展等で、講演会、ギャラリートークなどで、研究成果の市民向け公開に努めた。
- ・市民参加型の古文書整理ワークショップを毎月2回開催した。

ウ 研究における社会連携・貢献に関する事項

- ・小城市教育委員会や佐賀県立佐賀城本丸歴史館との共同研究をすすめ、展示や図録刊行等で地元への研究成果還元を努めた。

エ 大学開放に関する事項

- ・常設展示室でのミニ展示開催、閲覧室での図書開放等、開かれた大学を目指している。

オ その他国際交流・社会貢献に関する事項

- ・併任教員の1名が韓国へ留学（10月1日より1年間）留学した。

(4) 組織運営の領域

ア 教育研究組織の編成・管理運営に関する事項

・専任教員2名、併任教員4名、教務補佐員1名を配置し、センター長を中心とした円滑な組織運営・研究活動に努めた。また、文化教育学部や教養教育機構、附属図書館等、他部局との連携も進めている。

イ 財務に関する事項

・経費の節減に努めた。

ウ その他組織運営に関する事項

(5) 施設の領域

ア 施設，設備等の整備状況に関する事項

・菊楠シュライバー館の設備を最大限活用しているが、今後活動の拡大化及び資料の増大による施設の狭隘化が課題である。

イ 施設，設備等の利用状況に関する事項

・菊楠シュライバー館を拠点とし、研究・教育活動に努めている。また閲覧室・展示室は市民・学生によって利用されている。

ウ その他施設，設備等に関する事項

・貴重資料が保管されているので、セキュリティ確保のため、セコムに夜間警備を依頼した。